

マイヅルテンナンショウ	<i>Arisaema heterophyllum</i> Blume	絶滅危惧Ⅰ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		サトイモ科
選定理由	自生地は1ヶ所のみで、個体数が極めて少ない。	写真(山崎玲子) 
形態の特徴	葉は1個で、偽茎部は長く、葉柄部はそれよりかなり短い。小葉は17-21枚、倒披針形、長楕円形、あるいは線形。花序は葉の展開後に出現し、仏炎苞は緑色、筒部は細長く、舷部は卵形で基部が広く開出する。花序付属体は無柄、苞の外に出て上方に細長く伸びる。	
生態的特徴	草原、疎林の下、あるいは川辺などの湿った草地に生育する。葉と花序は6月頃地上に出現する。	
分布状況	中国、台湾、韓国にあり、日本では本州、四国、九州に分布する。岐阜県では西濃の北部にある。	
減少要因	開発などによる生育地の破壊。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘